

仕合わせの和

第246号
令和4年9. 1
(毎月1日発行)

眞実最高のお経

(諸経中の王様)

住職 谷川寛俊

お釈迦様は今からおおよそ三千年前、インドのマカダ国の王子様としてお生まれになりました。青年の頃、城を出て修行され、三十歳で悟りを開かれ、八十歳で御入滅されるまでの約五十年間色々な教えをお説きになりました。

お釈迦様が お説きになった 教えを文章にまとめたのが「お経」です。お釈迦様は御一生の間に数多くの教えをお説きになりましたから、お経も大変沢山有るわけです。

仏教聖典は俗に「八万四千」の法門と言われるくらい多くの教えが有ります。そのお経が、シルクロードの遙かな道をたどって中国に渡り、今から千五百年ほど前に日本に伝わってきました。法華経は、お釈迦様が悟りを開かれてから四十年後、即ち七十歳になってからお説きになったお経です。

ほけきょうほうべんほん
法華経方便品第二には、

「吾れ成仏してより己来このかた、種の因縁、種々の比喻をもつて広く言教をんきょうをのべ、無数の方便をもつて衆生を引導して、もろもろの著(じやく)をはなれしむ」

悟りを開き仏になってから無数の方便の教えを説いて、人々を導いてきたと言われたのです。そのあと、

「未だ説かざる所以は、説時、未だ至らざるがゆえなり。いま、正しくこれその時なり。決定(けつじょう)して大乘を説く」

とお述べになり、いよいよ眞実の教えである法華経を説く時が来た。

「今、正しくこれその時なり」と「決定して大乘を説く」と宣言されたのです。

その他「方便品第二」の中には、「正直に方便を捨て、たゞ無上道を説く。」

「此の経は、方便の門を開いて、眞実の相を示す。」

「世尊は、法久しくして後、要(かならず)、まさに眞実を説きたもうべし」

眞成寺ホームページ



玉蓮山 眞成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携 帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

大きい建物を建てる時には、どうしても足場を作らねばなりません。しかし建物が出来てしまえば足場はいらなくなります。四十二年間説いてきた教えは、法華経という本館を建てる為の足場のよくな物であると、繰り返してお話下さったのです。

「我が諸説の諸経、しかも此の経において、法華経最も第一なり」(法師品第十)「我れ、仏道を得て無量の土(ど)に於いて始めより今に至るまで、広く諸経を説く、しかも其中に於いて此の経第一なり」(見宝塔品第十一)

私が説いてきた全てのお経を統一するということとは、法華経の中に、法華経以外の四十年間の諸経が全て包含されているということなのです。法華経が眞実最高のお経であることを、お釈迦様が自身が繰り返して述べられただけでなく、多宝仏が法華経の眞実であることを証明されたのです。これも法華経がその他の諸経と異なる重要な点です。お釈迦様が法華経をお説きになつていた時、突然金色のまばゆいような七宝の塔が出現し、中から多宝如来の、宇宙法界に響き渡るような大

音声(おんじょう)が聞えてきました。

このことを皆さんがお唱えになつて居る欲了衆の最後に「その時に宝塔の中より、大音声を出してほめてのたまわく、善哉、善哉、釈迦牟尼世尊、能く平等大慧教菩薩法、仏所護念の妙法華経をもつて、大衆の為に説き給もう、かくの如し、かくの如し、釈迦牟尼世尊、所説の如きは、皆これ眞実なり」(見宝塔品第十一)

お釈迦様が自ら法華経が眞実の教えであると言われただけでなく、いわば第三者である多宝如来が、この娑婆世界とは違う別の世界(宝浄世界)から、わざわざ来た様な方便の教え、飯の教え、随他意の教えではなく、眞実最尊の教え、人々を救う最高の法であると、証明なさつたのです。法華経とはそういうお経です。

法華経には、人は誰でも仏性(ぶつじょうなる種)を持つており、現世で平等に成仏出来ると説かれています。法華経は、今を生き生きと生きる知恵です。

過去でも未来でもない、今を大切に生きていきましよう。
南無妙法蓮華経 合掌

